

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 高知県 】

1 実践テーマ	【 I V 】
2 実施対象者	高知県立高知若草養護学校 ① 事後学習（2回） 中学部（3名）、高等部（9名） ② 講演・実技体験 中学部（8名）、高等部（19名）、 教職員（25名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピックを通じて「スポーツの価値や効果」、「障害者スポーツ」、「郷土や外国の文化」などに関する学びの機会を提供し、県民のスポーツに対する理解を深め、大会後も県民が主体的、積極的にスポーツ活動に参画する持続可能なスポーツ環境づくりにつなげるとともに、オリンピック・パラリンピックへの県民の意識を高め、2020年東京大会に多くの県民が主体的に取り組む機運の醸成を図る。
5 取組内容	高等学校及び特別支援学校を中心に、学校の授業においてオリンピック・パラリンピックそのものについての学びと、オリンピック・パラリンピックを通じた「スポーツの価値や効果」、「障害者スポーツ」、「郷土や外国の文化」などの学びを展開する。 ○パラリンピアン（池 透暢氏）の講演・実技体験を中心とし、保健体育科教員による、事後学習2時間を実施。 （1）講演・実技体験 日時：平成29年12月5日（火） 場所：高知若草養護学校体育館 対象者：中学部（8名）、高等部（19名）、教職員（25名） 講師：池 透暢氏（日興アセットマネジメント） リオデジャネイロパラリンピック

5 取組内容

ウェルチェアーラグビー日本代表キャプテン
銅メダリスト

演題：「挑戦することの大切さとスポーツの魅力」

(2) 事後学習①

日時：平成29年12月19日（火）

場所：高知若草養護学校体育館

対象者：中学部（3名）、高等部（9名）

内容：講演の振り返り、ウィルチェアーラグビーについて知る。
ウィルチェアーラグビーミニゲーム。

事後学習②

日時：平成30年1月16日（火）

場所：高知若草養護学校技術室

対象者：中学部（3名）、高等部（9名）

内容：I'mPOSSIBLEを活用し、クイズ形式でパラリンピック、
パラスポーツを学ぶ。



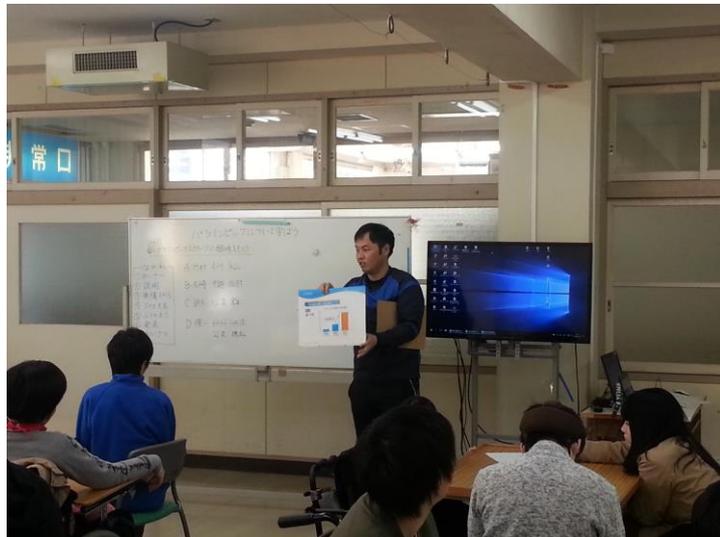
講演会の様子



実技体験の様子



実技体験後の質疑応答



事後学習の様子

6 主な成果

(1) 本校は、肢体不自由のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校で、全県内を校区としています。

【目指す学校像】

- 児童生徒が自己実現を達成できる教育を行う学校
- 保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校
- 地域になくてはならない存在として愛される学校
- 教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校

【生徒達からの感想】

- ・障害者スポーツへの興味関心が一層高まった。
- ・講演を聞き、諦めない気持ちや挑戦する気持ちが高まった。
- ・ウェルチェアラグビーを体験することで、普段できない動きや体験ができた。等

	<p>(2) 地域セミナーへの参加 中核拠点である日本体育大学の担当者の方から、事業の説明や教材の紹介があり大変参考になった。</p> <p>(3) 実践発表 推進校の発表が他校で実践に参考になればよいと思う。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>肢体不自由のある生徒達なので、特に実技体験の内容について、事前に、講師、事務局、学校の3者で打ち合わせを複数回行った。</p> <p>講師より、車いす鬼ごっこやスラローム等の様々なメニューを提示していただき、生徒の実態に合わせてグループを作り、グループごとに体験内容を検討した。</p> <p>事後学習の1時間目は車いすラグビーのミニゲームを実施し、2時間目はI'mPOSSIBLEを活用して、クイズ形式での授業を展開した。</p>
8主な課題等	<p>スポーツを通して、自らの可能性の拡大と意欲の向上や、積極的に社会参加する意識を育むため、体育や自立活動の授業の一層の充実を図ることが必要である。</p> <p>様々なスポーツの機会に触れるために、学校におけるスポーツ環境の整備が重要である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>来年度も継続してオリパラ教育に取り組む予定。</p>